



[令和8年3月11日 定例会発表要旨]

「子供の頃の話と手稲山地区の地滑りについて」

手稲郷土史研究会 会員 武市 尚子

この度の発表では、前半に「子供の頃の話」として、昭和 51 年から平成 6 年までの手稲での思い出を、そして後半に「手稲山地区の地すべり対策」についてお話しさせていただきました。

1 子供の頃の話

○ 原っぱで虫と戯れる

今は富丘に住んでいますが、小学校 5 年生まで手稲山の麓、手稲本町 5 条 1 丁目に住んでいました。その頃は周りに原っぱがあって、バッタやトンボを眺めたりして遊んでいました。今は住宅も立ち並びそういった遊びが見られなくなったように思います。

○ 手稲山の春

春が来ると、雪解けの手稲山遊歩道の近くにはあちこちに水たまりがあり、カエルやサンショウウオの卵がありました。水たまりが干上がってしまう前に、と卵を持って帰り、孵化したおたまじゃくしを大事に育て、足が生えて陸に上がる頃、山に戻しに行きました。その頃は良かれと思って無邪気にやっていたことですが、今は卵は自然のままに山に置いておくべきという考え方と知りました。

○ 夏は手稲音頭で盆踊り

子供が少なくなったり、町内会の人手不足など、現在は盆踊りも縮小傾向ですが、昭和の後半はまだまだ子供も多く、毎年七夕や盆踊りが楽しみでした。よく踊っていた「手稲音頭」ですが、昭和 53 年に西村巖さん作詞、永沼直志さん作曲で誕生したそうです。「手稲音頭を踊る会」で踊り継いでおられる栗田珉子さんの調査で復刻した「手稲音頭」の音源を実際に聴いていただきました。

○ 懐かしの校長先生

創立 141 年を誇る手稲中央小学校。研究会にも卒業生がたくさんおられますが、歴代の校長先生一覧をご覧くださいました。私は入学時は畠山先生、卒業時は首藤先生でしたが、ちょうど写真が白黒とカラーの境目でした。そんな時代だったのでしょうか？

○ 会員の皆さまとの語らいの中で

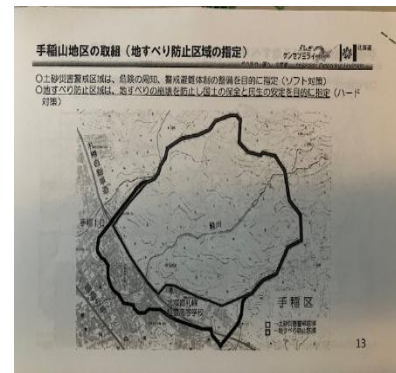
個人的な他愛もない手稲の思い出話でしたが、出席の皆さまから、今は「原っぱ」は所有者のいる土地であり、子供が自由に遊んで良い場所ではなくなったことも一因ではないかという指摘や、手稲山のカエルは育てて売っていたという体験談、また、手稲音頭作詞者の西村さんが手稲郷土史研究会で発表してくださったときのお話など、昭和後期にタイムスリップしたような談話の時間となりました。



2 手稲山地区の地すべりについて

道建設部土木局河川砂防課の資料に基づいて、手稲山の地すべりのメカニズムや今後想定される工事のことなどをご紹介します。

今回、地すべり防止区域に指定された手稲山の斜面は、6～7万年前に山体崩壊を起源とした岩屑なだれ堆積物が広域に分布し、そこに粘土化した脆弱な層があるため、融雪などで地下水が豊富に供給されるとすべり面から斜面がゆっくりと下方に移動する地すべりを起こす可能性があるとのこと。地中の水を抜く工事と斜面を抑える工事の二通りあり、現在工法が検討されているところですが、工事には多額の費用がかかるため、国直轄による事業化を要請しているところです。



お知らせ

令和8年度より、例会の日時を今までの第2水曜日の午後6時15分から、出席者の便宜を考慮し原則第3土曜日の午後1時30分からに変更いたします。
会場の都合で変更があった場合は、1ヶ月前にはご連絡いたします。

北海道新聞に掲載されました



令和8年3月25日の北海道新聞朝刊に、「たゆまざる歩み」第1巻復刊の記事が掲載されました。沖田会長、林事務局長と創刊当時を知る永井特別顧問が取材に応じました。「たゆまざる歩み」第2巻を配布した際、第1巻の復刊を希望する声が多く寄せられ、復刊に至った経緯、また当会の活動状況についても掲載されています。

「ていぬの部屋」

区役所1階の「ていぬの部屋」に、前号でお知らせいたしましたように、札幌市博物館活動センターよりお借りした「タンポポ」の資料を展示しております。今後、定期的に植物等、手稲や札幌に関するものを展示する予定にしております。ぜひ、ご期待ください。御提案がございましたら資料部にご連絡下さい。



「大人の一日散歩」

研究部で、5月4日(みどりの日 祭日)に、「大人の一日散歩」を企画致しました。

当日は、午後1時北大植物園入り口に集合し、園内を2時間ほどかけて散策する予定です。説明員が、御案内いたします。

尚、募集人員は30名を予定しており、締切日は4月30日ですが、定員になり次第締め切りといたします。

次回定例会 令和8年5月16日(土) 13時30分～ 区民センター3階視聴覚室

発表内容 「赤い靴の女の子」 手稲郷土史研究会 会員 梶本 孝

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第216号 令和8年4月25日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekishi@gmail.com 担当 菊池 博行